



## ごあいさつ

富山県立大学長 田中正人

富山県立大学が平成2年に開学して以来、20年が経過しました。この間に本学を巣立った若者は短期大学部を含めて5,300名になり、初期の卒業生は、各所で存分に活躍する中堅世代に成長しております。

開学から11年間の20世紀と後半9年間の今世紀を対比すると、工学と技術の分野で歴史に例をみない革命的なパラダイムシフトがあったことが読み取れます。すなわち、前世紀までは産業の発展それ自体が好ましいこととされ、そのための多様な技術を開発することに重点が置かれたのに対して、今世紀は有限の地球とグローバルな連関を強く意識して、地球環境の保全と持続可能な経済発展に資する技術開発が求められるようになりました。本学は、早くからこのパラダイムシフトに適合した21世紀のものづくりを先導する人材育成と、それに必要な先端的技術開発研究を進めてきましたが、少なくともこれから先の20年はこの目標に向かって迷うことなく突き進む余地が十分にあると思います。

当初2学科で出発した本学の工学部は今や5学科に拡充され、大学院には博士前期課程・後期課程の4専攻が設置されて、教育・研究・地域貢献の任務を果たす体制は着実に整備されつつあります。また、特色ある教育、優れた研究成果、また高い評価を受けた第一回認証評価結果により、本学のプレゼンスは全国的にも一層高まっており、少子化の流れの中にあっても、本学は高等教育機関として今後も揺るがぬ地位を占めることが確実と思われれます。

このような本学が今日あるのは、創設準備室開設以来今日まで、大学としての基盤を固め、大学の教育、研究、地域貢献、大学運営の各活動を実体化することに心血を注いで来られた多数の方々のおかげであります。私どもはこの20年を振り返り、また本学の将来を展望するにあたり、その方々の業績に敬意を払い、感謝の念を新たにしたいと思います。この二十年史がその一助になれば、これに勝る喜びはありません。